連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1281　2024/04/04（Thu）

発行　広島高校連絡会事務局
Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp
HP　http:// ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/
携帯 090－1180－7644（村井義幸）
090－9738－8264（望月照巳）

えっ？広島県の高校でAIが定期考査を採点！

～「『せんせい』になったあなたへ」オリジナル版～

全教が編集する教育月刊誌クレスコの４月号は，毎年「『せんせい』になったあなたへ」と題して，現役の先生から新しく先生になられた人たちへの熱いメッセージを特集します。今年も先輩の「せんせい」から希望あふれるあたたかいエールが掲載されています。現役を退いて数年たつ私も，「『せんせい』になったあなたへ」“独断と偏見”のオリジナル版を書こうと思っていたところ，広島県の高校で今年度から「ＡＩで定期考査を採点する」という話を聞き，この問題を切り口に考えました。

たくさんのアンテナを立てて生徒をよく観察しよう！

広島県の高校では今年度から定期試験をＡＩで採点するらしい。“定期テストをＡＩで採点？”といっても，現場を去り，元来アナログ派の私にはイメージしにくい。インターネットにはすでに実施している学校の例が載っています。生徒の答案をすべてスキャンして，コンピューターに取り込む。そうすると記号（番号），用語で解答する箇所は，自動的に採点され，クラス全員の同じ問題番号の箇所が画面上に表示され，ＡＩのミスも画面上で修正することができます。点数の集計ももちろん自動。その他さまざまな数字上の分析作業をＡＩがやってくれます。ねらいは「教員の働き方改革」の取組みとして，採点・集計時間の削減＋指導の質向上にあるそうです。実際「デジタル採点により，従来比で約 1/3 にテスト採点時間が効率化され」「テスト返却時間の短縮は，生徒のモチベーション向上にもつながった」という報告。すでに実施している広島県の現役の先生に聞くと「採点時間が大幅に短縮され，大変楽になった」と高評価。

私のような社会科(地歴・公民科)の教師は，問題作成も大変。他の教科の先生から「昨年と同じ問題を出せばいいんでしょ」と軽口をたたかれますが，塾が過去問題を集めていて，しっかり対策するのでそうもいかない。問題作成に苦労しました。もっと大変なのが採点作業。問題量も多く，200～300 ぐらいの答案用紙を前にして“うんざり”というのが本音。しかも，私は生徒に「試験終了後の最初の授業で答案を返却する」と公言していましたので，家に持ち帰って(現在は御法度)でも採点していたのを思い出します。でも，採点は私にとって生徒を知るとても大事な作業だったことも付け加えておきたい。一人ひとりの生徒の出来具合だけではなく，答案の難易度と比較して生徒がどのくらい事前に勉強したかがわかるし，以前の生徒と比較した学力差もイメージできます。要するに生徒の“顔”の一面が見える。何よりも 4 月，5 月のテストのときは，生徒の名前を覚える絶好の機会でした。答え合わせの時間は，珍解答の披露もあり，クラスとの人間関係づくりの場でもありました。要するに採点作業は私にとっては個々の生徒を知る大切な情報源の１つ，貴重なアンテナでした。ＡＩによってデジタル上で採点することによって生徒一人ひとりの“顔”を思い浮かべることができるのか？私だったら少し不安。それよりも効率化のメリットの方が大きいのでしょうか？

生徒の情報をどう評価するか～それが先生の仕事

もう１つデジタル化になって気になったことを思い出します。指導要録の「個人所見欄」のデジタル化です。私が現役のときから始まったのでもう２０年近くになると思います。アナログの時代は，年度末の担任にとっては，“憂鬱”な仕事でした。クラス全員の個人所見を手書きで記入する作業。学年ごとにクラス替えがあったときは，2 年 3 年の指導要録では，前年の担任の先生の所見を読むことができました。私が悪筆だったので，丁寧な字でしっかり書かれている文章を

読んだだけでその担任の先生をリスペクトしていました。面白かったのは，生徒の性格や行動のプラス面を強調する先生とマイナス面をより指摘する先生がいることでした。私はその生徒をしっかり見た結果ならどちらも「あり」だと思うし，どちらも大いに参考になりました。こんな楽しみが画面上に入力するだけになってなくなったのは，楽ではありましたが，残念でもありました。生徒の情報をどの視点から評価していくかも先生の大事な仕事だし，「せんせい」の特徴が大いに出てくるものです。

「説教」のできる先生になろう！

「説教」上手はいい先生。経験上，説教下手でいい先生は見たことはありません。私たちの仕事は，言葉によって，教え導き，生徒の成長を支え，後押ししてやることである以上，言葉の「発信」は先生の生命線だと思います。多くの失敗をした反省をこめて言えば，先生の発信によって生徒を勇気づけることもあれば，傷つけることもあります。

あの竹中平蔵は，コロナ禍で「授業にしても，定型化できるものは，全部動画配信にすれば，教師は同じ授業を，いろいろな生徒に何度もする必要がなくなる」「授業の大半はオンラインで行い，生徒を束ねる教師が少数いればいい」と言いました。政治を食い物にしてきた竹中平蔵らしい言葉ですが，先生の仕事は，肌と肌の触れあう空気感の中で生徒の情報をつかみ，分析し，発信していく仕事です。先生は個々の生徒に，クラス全体に，学年全体に，そして全校生徒に自分の言葉で発信していかねばなりません。私は，何人もの校長と出会ってきました。何も残らない話しかしない校長もいましたが，海田高校時代に出会ったある校長は，本当に過不足なく，生徒の理解できる言葉で話をされ，いつも感銘をうけ，私自身も楽しみでした。海田高校の運動会は，四色対抗戦でしたが，それぞれの「色」が足場を組んで創る大壁画に校長の顔が描かれたのはこの校長だけでした。また，側で聞いていても私自身も身が引き締まる話をされた生徒指導部長の先生。「説教」される生徒も納得顔でした。どんな言葉を，どんなタイミングで，どんな場面で，どんな意図を持って発信するか，難しいけれども，先生の大事な仕事。“修行”が必要なのです。やはり修行＝経験で一番役に立つのは，先輩や同僚の先生の言葉です。他の先生の「説教」を“盗んで”，経験を積み重ねるしかないのです。

黒柳徹子さんの珠玉の発信～魂の２７秒間

昨年黒柳徹子さんの特集番組で，「テレビ史に残る大事件」が紹介されました。それは，司会を務めた「ザ・ベストテン」の１９８０年６月１２日の生放送中に起きたこと。歌手の鈴木雅之がリーダーを務めた「シャネルズ」の「ランナウェイ」が４位に入り，登場したときのことです。ルーツであるドゥワップを黒人がうたっていたことから，顔を黒塗りにしたスタイルだったメンバーに，街頭の観客の少年から質問が飛びます。「シャネルズはどうして黒人のくせに香水の名前なんかつけるんですか？」

この瞬間に顔が曇った黒柳。CM明けに予定になかったコメントを語りだしました。

「さっき，山陽放送の質問の中で『シャネルズは黒人のくせに』という風に質問なさった坊やがいらしたんですけど，『なになにのくせに』という風に顔の色とか国籍が違うということで区別した言い方をすると，私は涙が出るほど悲しく思いますので，みなさん国籍が違う，そういうことで一段高いところから人を見下ろすようなふうに，偶然だったと思うんですよ，あの方は。でもどうぞ『なになにのくせに』とか言わないでください。お願いします」

生放送の進行を止めてまで，目を潤ませながら語った２７秒間。番組では「魂のメッセージ」として紹介されました。

黒柳徹子さんの突然の発信は，天性の力なのかもしれません。あるいはトモエ学園の校長先生や他の先生方によって受け入れられ育まれた個性なのでしょう。誰にもマネはできない。

何ごともぶっつけ本番は無理。授業だけではなく，“いい話”をするには心とテクニカルな準備が必要。前述した海田高校の校長先生も，生徒朝礼の前に小さなメモ用紙を準備されていたのを見たことがあります。がんばってください「せんせい」になったあなた…。

（本間英次）

あとがき

▼本文の、黒柳徹子さんの話を読んで、そういえばと思い出した話があります▼大竹しのぶさんのお子さんが通っていた小学校で、「原爆」の映画を見ることになったが、先生が「ここからは、気持ちの悪い画面があるけれど、続けてみますか」と生徒に聞いたそうです。生徒の多数は「見たくない」と手を挙げて途中で上映は終わったというのです▼その映画のナレーションを大竹さんがしていたので、お子さんは「最期まで観たかった」と言ったのです▼大竹さんは、自分がナレーションをしているからと思われることも顧みず、担任の先生に「残酷な場面であっても、再びそのような事態（や時代）を繰り返さないために、学校でこそ生徒にみせて欲しい」。と訴えました▼その場では、反応はなかったけれど、後日最後までの上映が行われたというのです▼色々なところで、小さな勇気が積み重なって、「現在」があることを改めて確認したいものです▼福山市議選の投票日まで、あと２日。全県から多く援助が連日福山入りをして下さり、本当に感謝しかありません。３名全員当選での会派の復活、議案提案権確立に結び付けましょう。